



- 1 a 「不順」は、同音の別字に注意してほしい。「不純」は純粹でないこと、「不順」は順調でないことである。b 「評価」はよく目にする言葉なので書けるように。c 「省略」も日常的によく用いられる言葉なので問題ないはずである。
- 2 傍線部の次の段落に「レシピにとらわれ」た場合のことが書いてあり、「食材との対話がない」ことを問題視している。「修業」にしてもそうだが、技術「以前にわかかっておいてほしい大事なこと」があり、それは「食材との対話」を通じた心構えだと説かれている。
- 3 次段落で具体的に説明されている内容と対応している。「完成品を作る部品に過ぎ」ないを頼りに、「対話が必要だ」という内容を裏返して考えていくとよい。
- 4 A・Cは平易な外来語なので確実に得点したい。Bがやや比喩的で難しいので、文脈から考えて「意味合い」という意味だとわかると少し考えやすくなる。
- 5 書かれている具体的な内容をことわざでまとめ直すという設問は頻出だが、正答率は高くはないことが多い。ぜひ抽象化と文脈把握、ならびに語句の運用能力を磨いて入試に臨んでほしい。
- 6 直接的には直前の「教えられるだけで、考えることをしないと…」をふまえて考えるとよい。ただし、「本文全体をふまえ」という指示もあるので、「その違い」の中身が具体的にわかるような内容のバランスで書くのがよいだろう。最終段落がそういったまとめ方になっているので参考にするのもよい。そもそも「捨てるしかない」という発想になる料理人の考え方については、本文後半で十分説明されているので、もし直前と結びつけにくいという場合にも、やはり文章の後半を参考にしていくとよいことになるだろう。
- 7 「先行投資」は字面を見てある程度のイメージをつかんでほしい。そのうえで◎の文の説明に合わせて、帰結部分を補う。さらに本問では帰結部分を導くための根拠となる部分が問題となっているが、「営み」という言葉からもイメージすると探しやすい。
- 8 文字通りの意味でいえば「優等生」はプラスの意味合いで用いられる言葉だが、実際に用いられる場面でもそうとばかりは言えない。どのような文脈・意味合いで用いられることが多いかという「常識」も重要な言葉の力である。ここでは建前とか、極端に言えば偽善的なことの意味で使われている。
- 9 筆者の考える「料理人の仕事／腕の見せ所」を理解していないということは明らかであろう。
- 10 直接的には傍線部の前後が答えになっており、とくに直後の文に書かれた「矛盾」が理由である。それを具体化すると、◎の文のようになり、「料理人も」を受けた箇所・「ことすらできていない」と続く箇所が空所なので、本来料理人のなすべき振る舞いを探す。
- 11 本文第五段落で唐突に「修業」の話が始まってしまい、「レシピ」の話はどこへ行ったのかと思いつつ読み進めることができていただろうか。途中で内容面から気づけたかもしれないが、筆者は「レシピ」と「修業」に共通の問題点を見出し、それを示すための並列となっているのである。
- 2 a 「混乱」の「乱」は小6配当漢字だが、いよいよ入試も近づいているので、書けるようになっていこう。b 「幼児」は、「用事」にしないことはもちろんだが、「幼」を「幻」と書かないようにも気をつけたい。c 「視線」は、「視」が「しめすへん」であることに注意すること。分かっているのに勢い余って「ころもへん」を書くというようなこともないように気をつけよう。
- 2 かなり荒っぽい口語表現であるが、不満や不服、憤りを表していることはわかっている。そのうえで、何に対しての感情かというポイントをおさえることが必要である。直後の会話から、理由をまだ聞いていないということが引かかっていることがわかる。
- 3 本文において当面は朔が黙ったままなので、何を考えているかはつきりとはわからない。ただ、「ぎゅつと握りしめたこぶしがかすかに震えていた」という表現から、強い感情を持ちながらもこらえているというイメージは持つておいてほしい。それが具体的に何なのか明かされるのは本文後半なので、そこと結びつけて答えをつくらう。
- 4 先生は生徒に対しても男女にかかわらず「さん」で呼んでいるので、文脈から判断するしかない。とはいえ、朔に話しかけている場面ではない（朔はひと言も発していない）し、「感情的にならないでください」と「わたし」に念を押す言葉が続いていることから判断に困る箇所ではないだろう。
- 5 基本的には知識を問うているが、前後の文脈から判断する必要もある。Bは「おにぎり」、Cは「決めこむ」からすぐに判断できるが、AやDは前後の状況とも照らし合わせる。
- 6 よくある言い回しなので、パターンとしてもおさえておいてほしい。
- 7 空所を補う問題は「答えが決まる」ということから逆算的に考え、必要な条件を意識しておくとうい。ここでは直前から「どうして」につながる内容であることがわかる。次に何に対して「どうして」と思っているのかを補う必要があり、それは「朔がいまだに、朝一人でやらされていること」である。これを字数の要求に合わせてポイントを抽出し、まとめ直す。「できないこと」が羅列されていることは明らかだが、さらに「他の子は当たり前前にできていることなのに」ということも重要なポイントになる。
- 8 「朔の話を書きちゃんと聞けばよかった」と思っていることは明らかであろう。
- 9 朔が思っていることを語り始めてから、「わたし」の考えもそれまでとは変化してきていることを読み取りたい。問8でも問うたようにそれまでの朔への対応が実質的に朔を追いつめるようなものであったことを後悔・反省しているのである。そのうえで、当該段落の内容を受けた選択肢を選ぶ。
- 10 本文最終部分を見ていくと、「朔に『がまんできるから』なんて言わせてしまうこと」と「先生や静原夫妻に嫌われること」を比べていることがわかる。あとは何を「守るべきもの」と言っているのかを念頭においてほしい。